

「六・一八浜松大空襲と
平和憲法を心に刻む集会」に
お出かけ下さい！

◆今から五六年前、戦争末期の六月十八日夜、浜松市が米爆撃機B29の大空襲を受け、一夜にして焼け野原と化し、死者三、三四九名、負傷者二、三四九名という多大な被害を受けました。

私たち浜松市民は、この大空襲を忘れてはおらず、同時に、再び「政府の行為によって、戦争の惨禍を招くことのないように（憲法前文）」決意を新たに努力することは、浜松市民のみならず、日本国民としての当然の責任であると考えます。

◆けれども、現在の日本は、あの侵略戦争を反省するどころか、歴史の事実を曲げ、「侵略」という言葉も使用しない状況となりつつあり、それが、明確に現れたのが、森内閣の最後になされた「中学歴史教科書検定」の出来事です。

◆あの中学「教科書」が、どういう状況で作成され、どういう意図が考えられるのか、更には今後どうなっていくのか等をご一緒に考えたいと願っています。

◆時あたかも、現在、国民の多くの支持があるとはいえ、危険な思想の持ち主の小泉内閣が誕生しました。このことも含めて日本の行く道を考えましょう！

一人でも多くの方のご参加をお待ちしています！

「――――― 集会の案内」―――――

｜名称：第十四回「六・一八浜松大空襲と平和憲法を心に刻む集会」｜

｜日時：二〇〇一年六月十八日（月）午後六時半～八時半頃｜

｜場所：遠州教会（浜松市紺屋町三〇一～十五）｜

｜内容：講演と協議｜

｜「現代史の中の教科書問題」｜

｜講師：岩淵敏高氏（塾講師、浜松YWCA時事問題常任講師）｜

｜＊共催：静岡県西部地区平和遺族会、社会民主党・浜松支部、西遠｜

｜地域連帯する労働組合会議、浜松市憲法を守る会、｜

「―――――」―――――